

3DCAD 及び解析ソフトを活用した包括的建築教育プログラムの開発とその評価

日本建築学会計画系論文集 第76巻 第665号/pp.1337-1345/2011年7月

正会員 大西 康伸 君

本論文は、熊本大学において自ら開発し授業で用い評価によって改善を重ねてきた貴重な経験を「包括的建築教育プログラム」という形にまとめて外部に公開するという非常に意義深いものである。内容は演習において、BIM 対応 3DCAD、構造解析ソフト、環境解析ソフトを用い、計画系、環境系、構造系の教員が合同で、意匠、構法、環境、構造を包括的に教育している。第一段階ではバーチャルなリバーシ・エンジニアリング課題を個人で取り組み、第二段階ではチームで前段階の作品の増改築案を作成し、解析を行う。その結果の数値と実体験を結びつけている。授業評価によって学生の理解度を測定し、このプログラム自身の評価を行っている。学生に対する非常に大きな効果はもちろん、分野を超えて知的協働を行った教員に対しても大きな効果をもたらしている。論文としての完成度の高さに加え、他教育機関に応用可能であり、今後建築教育を大きく発展させ得る成果であると高く評価できる。